

ライチョウ

ライチョウ（学名：Lagopus muta japonica）は、岐阜県と長野県の県鳥であり、日本アルプスの代表的な鳥です。和名のライチョウは「雷鳥」を意味し、悪天候の捕食者が少ないときに姿を現す傾向があることに由来しています。この鳥は高山の山頂に生息し、乗鞍岳（3,026メートル）のハイマツの間で繁栄しています。

カモフラージュは、ライチョウにとって重要な生存戦略です。夏には茶色の斑点があり、冬には真っ白になり、キツネやカラス、テンやその他の捕食者から身を隠すことができます。この種は絶滅の危機に瀕しています。その理由のひとつが、この種の個体数が高地に限られていることです。山頂には深い雪と限られた植物があり、ライチョウが氷河期に進化してきたその気候をまだ再現している場所です。

この鳥は人間を恐れず、日の出後から日没前の時間帯に最も活発に活動します。彼らのお気に入りの生息地は、ハイマツの厚いシェルターの下です。縄張り意識の強いオスはカエルのような鳴き声で、メスは「クークー」という優しい声で鳴くので、近くにいることがわかります。彼らの糞は他の鳥とはかなり異なり、松の木が落とした茶色いミミズのような尾状花序に似ています。明るい色の糞は新鮮で、ライチョウがまだ近くにいる可能性があることを示しています。

ライチョウを見つけたら、静かに見守り、5メートル以上離れてください。そして、もし鳥がストレスを感じていると気づいたら離れるようにしてください。春の繁殖期には特に敏感になります。高山の環境を守るために、明確に示された道を歩き、指定されたトイレを使用し、植物を摘まないでください。また、捕食者を引き付ける可能性のあるゴミを残さないようにしましょう。

地面に近いところで静かにしゃがむと、この魅力的な生き物を垣間見るチャンスが増えるでしょう。宿泊施設やバスターミナルのスタッフに、探すのに最適な場所の最新情報を聞いてみましょう。